



ヒメボタル確認の報告

宮原 真樹

成虫で発光するホタルで代表的なものにはゲンジボタルやヘイケボタル、ヒメボタルがいます。そのうち幼虫が水中生活するのはゲンジボタルとヘイケボタルで、ヒメボタルは陸生でカタツムリなどの陸生貝を食べていて「森のホタル」とも呼ばれています。

ヒメボタルは、富山県内では1989年に神通峡で確認されたのが最初でその後の確認記録はなく、富山県の絶滅危惧種Ⅱ類に指定されています。

今年は北信越ホタル研究会が富山において開催されるにあたり、まだ謎とされる県内のヒメボタル生息状況を調査することになりました。ホタル研究会理事の草桶秀夫氏を始めとする6名の探索チームで県内の山々を探索することにしました。

探索は2019年7月6日、当時発見された神通峡周辺の間々から調べ始めました。

夜間を通しての調査で、22:30頃に御鷹山の標高450m地点で第一発見がありました。発見時の天候は曇、気温20℃、あたりは真の暗闇。複数のヒメボタルがフラッシュ点滅をしながら飛翔していました。次いで、野積川上流の杉林でも複数がシンクロしながら飛翔している6mmほどの小型のヒメボタルを確認することができました。

今回神通峡周辺で探索した地域5ヶ所のうち、2ヶ所で生息が確認できましたが、生息場所が人里はなれた山奥であり車も通らず、発光するのが深夜であるため、今まで発見されることがなかったと考えられます。

次の探索地として選んだ県立自然公園有峰では、2019年7月に始めて生息が確認でき、8mmの大型のヒメボタルを採集しました。(右上の写真を参照)

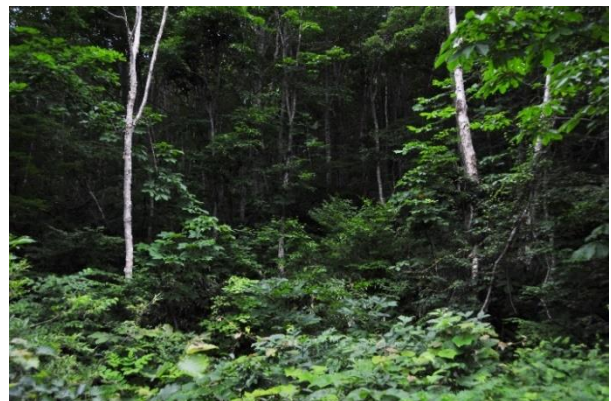
お尻の発光部から発する光は小さいが、周りの湿った空気層を反射してかボーと大きな火の玉のように見えます。草の中から2匹のヒメボタルがシンクロしながらボーと立ち上がるのを見たなら、ヒメボタルを知らない人は恐怖心を駆り立てられることでしょう。

光って飛んでいるのは全てオス。真っ暗な闇夜にいるメスを探すため、写真にあるように頭部から飛び出すような大きな目玉もっています。メスは後翅が退化しているため飛べなく、1週間くらいのはかない命と言われています。

ヒメボタルの観察は、極めて局所的に生息するため生息地域を探さなければなりません。更に標高によって出現する時期も違い、観察する時間も深夜まで及ぶため、知っている方に連れて行ってもらった方がよいでしょう。夜の森に入るので、熊やイノシシには十分注意をしましょう。



ヒメボタル
有峰



〈 ヒメボタルの生息環境 〉

外来生物について考える

富永 宣宏

現在のねいの里の生物展示で最も人気があるのはアメリカザリガニで、特にザリガニ釣りは子供たちに大人気です。

8月に実施した行事でも、ザリガニ（ウチダザリガニ）とウシガエルを食べる企画に多くの参加がありました。

ザリガニやウシガエルは外来生物で、展示や行事を通して身近なものになってきていますが、実は日本の本来の自然生態系を維持するためには非常に大きな問題があるということを理解する必要があります。

外来生物の中でも、特に自然環境や農作物に大きな影響を与えるものを特定外来生物といい、輸入や飼養・運搬、野外に放つこと、などが禁止されています。

ねいの里に生息・生育している特定外来生物はウシガエルのみですが、それ以外にも自然生態系に悪影響を及ぼす外来生物は何種類か生息しており、生態系への影響が少しずつ見られるようになってきています。

たとえば、オオガハスの池ではウシガエルによるタナゴ類などの淡水魚やトンボのヤゴなどなどが捕食されていると思われま

す。そのため、先日実施した行事や年末に実施するオオガハスの手入れの際にはウシガエルの親やオタマジャクシを駆除しています。

また、セイタカアワダチソウやアメリカセンダングサなどの外来植物の除去のために、ボランティアの方ががんばってくれています。

外来生物による被害防止対策のため私たちができることが3つあります。

入れない 悪影響を及ぼす恐れのある外来生物を、本来いない地域へ入れない。

捨てない 飼養・栽培している外来生物を捨てない、逃がさない。

広げない すでに居る外来生物を他の地域に広げない。

これらのことを必ず守り、外来生物をペットとして飼育する場合には、責任を持って必ず終生飼育することを守ってください。

ねいの里では年間を通して「外来生物展」を開催し、外来生物が自然生態系に与える影響や、被害対策について理解してもらうため、主な外来生物の実物やはく製を展示していますので、是非外来生物問題を考えるための一助としてください。



（ザリガニ釣りのようす）



ウシガエル



ミシッピアカミガメ

セイタカアワダチソウ



〈 外来生物展 〉

〈 ねいの里の周辺で見られる主な外来生物 〉

● (7月28日) 「 雑木林探検 PART I 」



今回が初めてのプログラムです。登山技術を応用した木登り、ツリークライミングを楽しみました。また、専門家による樹木伐採を見学した後、伐採された木を鋸で玉切りする体験もしました。



● (8月11日) 「 トンボの調査と標本作り 」



トンボの採取と調査の後、標本作りをしました。標本作りでは子供よりも保護者の方が熱心に取り組んでいる家族も見られましたよ。

夏休みの自由研究になったのかな？

【確認できたトンボ】

モノサシトンボ、キイトトンボ、オオイトトンボ、オニヤンマ、ギンヤンマ、クロスジギンヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ

● (8月24日) 「 水辺の生き物観察と外来生物への接し方 」



〈 泥んこで生き物採取 〉

行事目的の一つ、外来生物の除去では、70匹ほどのウシガエルのオタマジャクシを駆除できました。外来生物の試食はウシガエルとウチダザリガニ。

【確認できた生き物】昆虫：ミズカマキリ、ギンヤンマのヤゴ、コオイムシ (オオコイムシか?)

魚 類：ギンブナ、キタノメダカ、ハゼの仲間

その他：スジエビ、タニシ、ウシガエルのオタマジャクシ

サギの被害なのか環境変化なのか、魚が少なくなっているようです。



● (9月21日) 「 秋の鳴く虫観察とナイトウォーク 」



〈 鱗片を転写した標本 〉

蝶の羽についている鱗粉を、ろうを塗った紙に写し取って標本を作る体験と、バッタやキリギリスの仲間を標本にする方法を教えてもらいました。

その後、虫の声を聞きながら (アオマツムシがたくさん樹上で鳴いていました)、夜の森を散策。ライトトラップには蛾の仲間が集まりました。



● (10月6日) 「 キノコ狩りとキノコ鍋を楽しむ 」



今年のキノコ鍋には6種類の天然キノコを入れることができました (天然マイタケが入ったのは今年が初めて?)。キノコ狩りでは、袋一杯にして戻ってこられた人もいましたが、残念ながら鑑定結果は食べられるのはほとんど無し。それでも、下記のようにたくさんのキノコが見られましたよ。キノコ鍋には皆さん満足の様子。



【キノコ狩りされたキノコ・実物展示の物も含む】

食：アマタケ (シバタケ)、ウラベニホテイシメジ、カラスタケ、クリフウセンタケ、サクラシメジ、スッポンタケ、ツチグリ (幼菌時)、トキイロラッパタケ、ヌメリコウジタケ、ホオベニシロアシグチ、ホコリタケ (幼菌時)、マイタケ、ミキイロウスタケ

毒：イッポンシメジ?、カエントケ、オオワライタケ、クサウラベニタケ、コテングタケ?、シロオニタケ、スギヒラタケ、タマシロオニタケ、ツキヨタケ、ドクベニタケ

不食：カイガラタケ、クサハツモドキ、サマツモドキ?、フサヒメホウキタケ?、ホウロクタケ、ヤグラタケ、ワサビカレバタケ

不明：種名の特定できないもの多数

【キノコ鍋に入れたキノコ】

天然：シロヌメリイグチ
ナラタケモドキ
ヌメリコウジタケ
ハナイグチ
ホオベニシロアシグチ
マイタケ

購入：ナメコ
ブナシメジ
マイタケ

ねいの里 これからの行事案内

● 11月3日(日)「雑木林探検 PART II」

9:30～12:00 集合場所：ねいの里 参加費：200円
定員：30名 対象者：一般(子供中心) 募集は終了しました。
マッチやライターを使わない火起こし体験をします。また、事前に
焼いた炭の窯出しや、焼き芋、パン作りも行います。



● 11月17日(日)「蔓植物の観察と輪っか作り」

9:30～12:30 集合場所：ねいの里
対象者：一般
蔓植物を観察しながら採取し、
クリスマスリース用の輪っかを作ります。



● 12月1日(日)「クリスマスリース作り」

9:30～12:00 集合場所：ねいの里
定員：20組 材料費：リース1個につき300円
持ち寄った材料でクリスマスリースを作ります。

● 1月4日(土)～6日(月)「春の七草頒布会と正月遊び」

9:00～17:00(4日は13:00から)
場所：ねいの里
ねいの里や周辺で集めた春の七草を頒布します。
また、昔の懐かしい正月遊びも体験できます。
(200セット限定、300円/1セット、一人2セットまで)

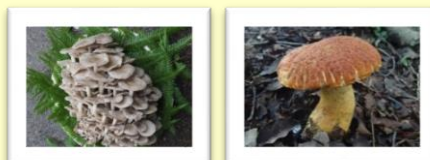


**** 〈行事への参加希望の方は、ねいの里までお申し込み下さい。〉 ****
受付開始は、行事实施の約1ヵ月前からになります。

■ 企画展

9月14日～11月24日 [ねいの里キノコ写真展]

ねいの里周辺で見られるキノコを中心に展示
しています。



11月27日～3月30日 [ロードキル写真展]

人だけでなく多くの生き物も交通事故で命を
落としています。交通事故にあった生き物の
写真を展示します



12月14日～1月19日 [春の七草実物展]

春の七草や七草と間違えやすい野草の実物を
展示します。



○ 「ねいの里自然塾の会」会員の駐車場利用について

会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、ナチュラリスト駐車場を利用来ます。



発行 富山県自然博物館ねいの里 館長 富永 宣宏
〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1
Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp
ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>